

アンケート調査

「医学部, 歯学部・附属病院の課題とその改善について」  
(予備調査)の結果報告書

平成8年4月

国立大学協会  
医学教育に関する特別委員会

### 正誤表

下記の個所に誤りがありました。

ご訂正くださるようお願いいたします。

個所	正	誤
13頁 18行目	医学ではインフォー ムド・ <u>コン</u> セントの 徹底	医学ではインフォー ムド・セントの徹底

## はじめに

今回、アンケート調査「医学部、歯学部・附属病院の課題とその改善について」（予備調査）結果を報告書としてまとめました。このアンケート調査は、元来本委員会での医学教育に関する審議の参考に供することを目的として行ったものであり、非公開のものであります。しかし、本委員会で最終的に討議した結果、アンケート調査結果を、印刷資料として、関係者に限定配付することは、今後各大学が医学教育の改善を進めていくうえで、有益であろうとの結論に達しましたので、急遽、予備調査ではありますが、データをまとめた次第です。

この調査を行ったそもそもの動機は、今後医学教育の改善を検討するにあたって、関係者の意識調査及び現状の点検を行うことが、各大学で現在進められている教育改革と同様に、まず重要であるとの認識に基づいています。

幸い、全施設から回答を得ることができ、各大学で医学・歯学施設の管理指導にあたっている皆さんの、医学課題に対する認識がこのアンケート調査結果である程度明瞭になったと考えます。重要度－緊急度の高い課題については、勿論本委員会としてもその実現に向け、協力を惜しまないものでありますが、一方、重要度－緊急度の認識が低かった課題についても、一般社会から見て重要度－緊急度が高いと思われる課題に対しては、このさい関係者が意識変換を図り、課題の解決、改善に努める必要があります。したがって、これら今後に残された課題については、各施設におかれてもその改善に向けて方策を種々検討していただくことをここにお願いするものであります。

最後にお忙しいなか、このアンケート調査にご協力いただいた各施設各位に改めて深謝するとともに、各大学において医学教育の改革がさらに推進され、医学・医療の進歩、改善ひいては社会の発展に貢献することを衷心から期待いたします。

平成8年4月吉日

国立大学協会

医学教育に関する特別委員会

委員長 石川英一

## ●目 次

はじめに

調査目的

調査項目

集計と分類

I 調査結果	7
1. 各課題の重要度—緊急度	7
2. 最高課題及びそれに対する各施設グループの認識状況	7
3. 個々の課題に対する各施設グループの認識状況	9
1) 学部教育	9
2) 卒後教育（研修）	9
3) 大 学 院	10
4) 厚生補導	11
5) 研 究	11
6) 組織・人事・管理・財政・広報	12
7) 附属病院	12
4. 結 論	13
5. 今後の改善方向—提言—	14
II 資 料	17
1. 重要度—緊急度の分類他	17
2. 「医学部、歯学部・附属病院の課題とその改善について（予備調査）」アンケート調査表	25

委員会名簿

## ●調査目的

医学部・歯学部の当面する課題について、その改善を検討する第一歩として、これらの課題に取り組む当事者の意識調査の目的で、本委員会が選定した課題135題について、平成7年5月現在で、全国国立大学医学部（30施設）、医科大学（12施設）、歯学部（11施設）の施設長宛て、その重要度—緊急度を尋ねた。

## ●調査項目

質問1 これらの課題（IIの2のアンケート調査表参照）はあなたの所属する施設にとって、重要であると考えますか？

回答の選択肢 重要である（5～1，最高5，各20%程度）；重要でない 0

質問2 質問1で「5」と回答した場合、それぞれについて、

改革を実行することを前提として、これら課題への取組みの緊急度は、つぎのどれでしょうか。

回答の選択肢 4（最優先）、3（速やかに）、2（今後の検討）、1（将来の課題）、0（実施中または実施済み）

## ●集計と分類

全施設から回答を得た。医学、歯学（部）別に、さらに医学は医学部、医科大学別に、また医学部の場合は旧帝大（筑波大学を含む）、旧6大学、新8大学及びその他にさらにグループ分けし、集計した。各課題の重要度—緊急度（優先度）を総合的に判断するため、質問1、質問2の回答結果を組み合わせて、重要度—緊急度を5段階のレベル（レベル1～5）で表現した。さらに、レベル1は4段階に、レベル2、5はそれぞれ2段階に細分化した。

さらにまた、各課題について施設グループ間での認識の違いを分かりやすく表現するため、レベルをスコア化（スコア5～0）した。すでに実施中の課題は、「実施中」または「一部で実施中」と記載した。レベルと異なり、スコアは大きいものほど重要度—緊急度が高い。なお、レベル及びスコアの意義、基準及びそれに基づいた資料表についてはIIの1に掲載した資料を参照されたい。

# I 調査結果

## 1. 各課題の重要度—緊急度

課題の重要度—緊急度に対する認識が各施設グループで異なる（資料表2参照）。

- 最高レベルの課題は、医学・歯学間では「歯学」で、「医学」では「旧帝大」、「旧6大学」で、それぞれ多く、一方（施設が全施設であれ、質問1で最重要選択肢5と回答した施設のみであれ、質問2でそれらの過半数の施設が最優先（選択肢4）を選択した緊急度の高い課題の総数は、「医学」、「医学部」で最も多かった。
- 各課題に対する認識度も、各施設グループで必ずしも同じでなかった。例えば「医学」と「歯学」間で重要度—緊急度に対する認識が一致した課題は、40題、他の95題については、認識度が異なっていた。

## 2. 最高課題及びそれに対する各施設グループの認識状況

最高の課題は、各施設グループ独特のものを含め計17題である。学部教育関係が5題、卒後教育関係が1題、大学院関係が5題、研究関係が4題、附属病院関係が2題である。概算要求がらみの課題が多い。それに加え、歯学では医学と対照的に、附属病院を場とする教育課題が最高課題の一つであることが注目される（次表及び資料表3参照）。

表1 各施設グループの最高課題

施設グループ	最高課題
●医学	学部教育スタッフの増員，大学院重点化構想，研究費の確保
○医学部	学部教育スタッフの増員，大学院重点化構想
旧帝大	学部教育スタッフの増員，教育施設の整備充実，教育設備の整備充実，大学院校費の増額，研究人員の充実，科学研究費の増額
旧6大学	学部教育スタッフの増員，臨床実習における修得技能の明確化，大学院重点化構想，研究支援スタッフの確保・増員，附属病院の教育研究施設として必要な人員の確保，インフォームド・コンセントの徹底
新8大学	大学院充足率の改善対策，研究費の確保
その他	大学院生・外国人留学生への財政的支援の強化，大学院施設・設備の整備
○医科大学	研究費の確保，附属病院の教育研究施設として必要な人員の確保
●歯学（部）	学部教育スタッフの増員，大学院重点化構想，研究費の確保 卒前臨床患者の確保，卒後研修設備の充実

●学部教育スタッフの増員，大学院校費の増額，研究費の確保，科学研究費の増額は，いずれの施設グループでも重視されていたが，課題によっては施設グループ間でかなりの認識の違いがみられた。卒前臨床患者の確保，卒後研修施設の充実は，「歯学（部）」に特徴的な最重要・最優先課題であった。「医学」での，臨床実習における修得技能の明確化の重要度－緊急度については施設グループ間で認識に差があった。

### 3. 個々の課題に対する各施設グループの認識状況

#### 1) 学部教育

教育スタッフの増員及び設備・施設の改善要望が強い。一方、学部一貫教育、シラパスの作成、早期体験学修などのソフト面は各施設ともすでに実施されたか、または実施されつつある（資料表4参照）。

●教育カリキュラム、授業科目関連の課題に対しては、すでに取り組んでいるとの回答が多かった。

学部教育の一貫性については、各施設グループとも、全施設の過半数が、すでに実施していると回答した。

授業科目については、社会科学関係の科目履修の必要性を認めた回答が多かった。

医師国家試験対策は、いずれの施設とも、最重要課題と回答した施設はなかった。

●教育方法についても、多くの施設グループで、改善への取組がみられている。

●一方、人員（教育スタッフの増員）、教育施設・設備については最重要と考える施設が多く、回答の過半数は、最優先で改善を要望した。

教育病院の確保についても、多くの施設グループで、該当施設の過半数が重要と考え、最重要と回答した施設の過半数は、最優先すべきであると回答した。

#### 2) 卒後教育（研修）

歯学部が、初期研修の義務化を最も重視する。次いで新8大学、その他の医学部が最優先すべきと考える。旧帝大の過半数は、卒後研修では、むしろ、大学院教育との並立が重要であると考えている。卒後研修施設の充実への要望も一部にある（資料表5参照）。



●「歯学部」は、全施設の過半数が初期研修の義務化を最重要課題であると考え、さらに最重要と回答した施設の過半数は緊急（最優先）の課題であるとした。

それに対し、「医学」では、研修医の待遇改善により関心が強く、この改善に積極的であったにも拘らず、初期研修の義務化については関心は一般に高くなかった。わずかに、「新8大学」「その他の医学部」の一部の施設（の過半数）が最優先の課題であると回答した。

●卒業教育の改善への熱意は、「その他の医学部」を除いて、なお明確でなかったが、大学院教育との有機的連結、共通教育の対象と内容は一部の施設で関心が高かった。

●卒業研修指導医の育成の必要性も、少数意見ながら多くの施設グループで認められており、卒業研修施設の充実も、「医学部」の一部及び「医科大学」の過半数は重要であると考え、また最重要と回答した施設の過半数は最優先すべき課題であるとした。

### 3) 大学院

大学院重点化構想、校費の増額が最大の課題である。学部教育とは異なり、教育ソフト面の改善は今後の課題である（資料表6参照）。

●大学院重点化構想は、「医科大学」を除く各施設グループにとって、最高課題またはそれに準ずる重大な課題であった。大学院重点化構想は、いまや「旧帝大」の時代を過ぎて、「旧6大学」で最高の課題であった。そして「新8大学」では、大学院充足率の改善対策が、最高の課題であった。

●一部の施設は、教育の重視、基礎系・臨床系の連携強化、課程博士制度の重視などを、重要で最優先すべき課題と考えている。しかし、学生募集方法の見直しについては、「歯学部」と対照的に、「医学部」、「医科大学」では関心が低かった。

●カリキュラムについては、分野別基礎技術教育カリキュラムに対する関心が強く、「新8大学」、「その他の医学部」で実施されつつある。大学間の単位互換に対する意欲は一般に薄いですが、「その他の医学部」では一部の施設で実施されている。

●大学院の場合も、人員（Teaching assistantの増員・基礎講座院生の確保）、財政措置（大学院生・外国人留学生への財政的支援の強化、課程修了者に対する研究員制度拡充・研究支援制度の新設）、施設・設備の整備及び校費の増額を求める声が高かった。

しかし、その反面、教職への優先的採用など大学側が考えるべき課題については一部の施設を除いてなお関心が低かった。

#### 4) 厚生補導

厚生施設・留学生宿舍の整備の要望が一部に強い(資料表7参照)。

●学生対策としてのチュータ制の活用，学業不振者に対する指導，学生の健康管理などは，関心が低く優先度が低い施設グループもあるが，「医学部」全体としてはすでに実施している施設が相当数ある。

●設備としては，厚生施設の整備，留学生宿舍の整備（とくに大学院生に対し）等が「歯学部」，「旧6大学」等で重要で，かつ最優先すべきとする施設が多い。日本人向け学生宿舍の整備については，「歯学部」の一部施設を除いて，一般に改善要望が低い。

#### 5) 研 究

研究人員，支援スタッフの確保，研究費・科学研究費の確保増額及び施設・設備の充実整備の要望が強い。さらに基礎医学研究の充実，先端的医療の充実をめざす基礎研究の推進，臨床系医学者との共同研究体制の促進，非医学系基礎学者との共同研究の推進など，研究推進戦略についても，多くの施設が，重要で，かつ緊急の課題と考える(資料表8参照)。

●施設グループ間で認識に差があったが，最大課題は，研究人員の充実，研究支援スタッフの確保及び研究費の確保，科学研究費の増額など，人員，財政的措置に対する要望であった。外注経費の補填は一般に関心が低く，学内研究奨励制度は一部の施設ですでに導入されている。

●研究施設・設備の整備充実についてはいずれの施設も重要で，緊急の課題と考えているが，その共同利用の必要性については，意見が分かれた。動物実験施設の整備も一部の施設グループで，緊急性のある重要課題であった。

## 6) 組織・人事・管理・財政・広報

教官の選考基準の見直し、国内教官交流の推進、広報活動の活発化などは、今後の課題である。組織については、大学院の重点化構想、追加組織・部門の検討には積極的な施設が多かったが、現講座の見直しについては、意見が分かれた（資料表9参照）。

- 教官の選考基準の見直しの積極的検討は、なお少数意見にとどまった。しかし、「旧帝大」では、教育評価を取り入れている施設もあり、また「旧6大学」、「医科大学」の大多数は診療評価の導入を重要と考え、最重要と回答した施設の過半数は最優先課題であると回答した。
- 組織の見直しでは、「医科大学」を除いて、大学院重点化構想が最高またはそれに準ずる大きな課題であった（大学院の項で前述）。また、多くの施設で、追加組織・部門の検討がレベルの比較的高い最優先課題であった。

しかし、現講座制度の見直しについては、「旧6大学」を除いて、なお意見の一致を見なかった。

- 教官交流と関連して、大学間教官交流の推進、全国教官総覧のデータベース化には、一般に関心が低かったが、国際交流に対しては、「医学」系施設グループの多くが、比較的積極的であった。
- 研究財源の多様化に対しては、「旧6大学」が比較的積極的であった。しかし、組織・管理・財政に関する教育科目の開講については、各施設グループとも概して消極的であった。
- 広報活動（医学教育・研究の評価報告のデータベース化、大学レベルでの広報活動の強化）については、いずれの施設グループとも、特に積極的な意見はなかった。

## 7) 附属病院

施設・設備の改善、人員確保はレベルの高い課題である。しかし、診療組織・病棟の見直し、地域社会一般住民に対する附属病院の役割などにはなお、関心が低い。患者サービス面では、インフォームド・コンセントの徹底が最優先の重要課題である（資料表10, 11参照）。

- 附属病院の施設改善，人員の確保は，大きな課題であった。とくに「歯学」にとって，卒前教育と関連する，患者の確保，施設・設備の整備は，最高またはそれに次ぐレベルの重大課題であった。
- 病院の進む方向，あるいは体制については，多くの施設にとって最重要／重要，かつその施設にとって最優先の課題であった。「医学」では先端医療の推進，「歯学」では総合診療部・救急部の設置，充実が重要な課題であった。
- 診療組織そのものについては，「歯学」を除いて，見直し，整備を求める声はなお少ない。病棟についても同様である。
- 医療機器管理については，管理人員（臨床工学技師）の確保が一部の施設グループで，重要かつ最優先の課題であった。
- 患者サービス関連では，インフォームド・コンセントの徹底が，多くの施設グループで重要な課題であり，とくに「旧6大学」で最高課題であった。
- 管理・運営・財政については，総論として関心の高い課題であるが，具体的方策については，一般になお関心が低く，改善への優先度も低かった。
- 地域社会に対しては，生涯教育への寄与，病院間情報ネットワークの整備など対地域医療関係者関連は，一部の施設で最優先すべき課題と考えられていたが，地域社会を考慮に入れた診療体制，地域調査の実施などは，なお関心が高くない。

## 4. 結 論

- 課題の重要度－緊急度に対する認識は施設グループ間で必ずしも同じでない。大学それぞれの置かれた立場が異なることを反映すると考えられる。
- しかし，最高課題は，いずれの施設グループにおいても，「学部教育」，「大学院」，「研究」関連の人員・施設・設備・財政面での改善要望である。  
 なお，「附属病院」関係では，人員・設備・施設関係以外に，医学ではインフォームド・セントの徹底，歯学では卒前臨床患者の確保が最大課題の一つである。
- 「学部教育」では，ソフト面の改善が見られる。
- 「卒後教育（研修）」については，初期臨床研修の義務化は，歯学にとって準最高の緊急課題であるが，医学では一部の施設を除いて，なお関心が低い。

- 「大学院」の最大の課題は、大学院重点化構想である。教育カリキュラム、基礎臨床の連携強化、課程博士重視などにも積極的な意見があるが、「学部教育」と異なり、ソフト面の改善は今後に残されている。
- 「研究課題」については、各施設とも重要、かつ改善を要する課題と考える。
- 「教員の選考基準の見直し」について、教育評価、診療評価の導入に対する動きなど、積極的意見が一部にある。現講座制の見直し、教員交流の推進、広報活動の活発化などは今後の課題として残る。
- 附属病院関係では、とくに地域社会に開かれた附属病院としての在り方に対する自覚、改善意識がなお乏しいと考えられる。

## 5. 今後の改善方向—提言—

### ●改革を推進するための意識改革の必要性

改革の推進にあたって、必要なことは、推進者・実行者の認識に基づくだけでなく、対象者とくに受け身の対象者の立場に立って課題を解決することが肝要と考えられる。今回の調査結果も、その観点から考察する必要がある。

即ち、「教育関係」の課題については、学生及び研修を受ける医師の視点に立って、「研究関係」の課題については、教育・社会への還元の立場から、「附属病院」の課題については、教育・研究への貢献だけでなく、開かれた病院として、また患者の立場に立って、課題を再認識し、課題の解決に向けて意識変換を図り、積極的に努力しなければならない。

### ●学部教育の充実

ソフト面、カリキュラム等では、多くの大学が教養部を廃止し、一貫教育の趣旨に沿って、早期体験学習などの強化を図っているが、今一度教育される学生の側に立って、きめ細かい実施計画を作る努力とともに、その教育効果を常に自己点検・評価し、また注意深く追跡する必要があるだろう。

### ●卒後研修を意義あるものにする努力

国立大学の医学教育の最大課題は、卒前教育とともに、それと一貫性を保つ卒後教育（研修）の改善である。その意味で初期研修の義務化は各大学が真剣に取り組むべき課題である。

各大学が、研修を受ける者の立場に立って、より良い医師を育成するため、わが国医学・医療の発展のため、研修医の待遇改善に積極的であるだけでなく、卒後研修の意義を深く考察し、その改善に向けて、各大学教職員の意識変換とカリキュラム改善に積極的、自主的に取り組むことが希望される。

それとともに、卒後研修を恒久化するために、施設、設備整備を含めた積極的政策を関係当局に期待したい。

なお、卒後研修をより効率的にするには、学部特に臨床教育との一貫性を図る必要がある。いまなお、解決されていない臨床実習における修得技能の明確化が強く望まれる。

### ●施設・設備・予算面の改善

今回の調査で最高課題に挙げられたもののうち、学部教育、大学院、卒後研修などの施設・設備の整備については、関係当局及び社会の温かい理解を得て近い将来速やかに改善されることを希望する。科学研究費の増額、大学院校費の増額、大学院生・外国人留学生の財政的支援の強化など、予算面でもさらなる改善を望むものである。

### ●人員面の改善

学部教育スタッフ、研究支援スタッフの確保・増員、附属病院の教育研究施設として必要な人員の確保など人員面の改善も最高課題に挙げられたが、これらの改善については、この際抜本的な対策を関係当局及び各大学に期待したい。欧米のごとく、学外を含め、人材をより流動的かつ有効に利用することによって、教育の充実・改善を図る必要がある。それには、教員の任期制の検討のみならず、現今の非常勤講師、客員教授・講師制度を見直し、大学・学部レベルで積極的活用を図る必要がある。大学院修了者についても、教職への優先的採用など積極的に検討する必要があるだろう。

### ●教員選考基準の確立

人員面の改善と関連して、教員選考基準についても、各大学でより多角的な視点から検討する必要があるだろう。教員の流動化の観点からは、各大学に共通な基準があることが望ましいと考えられる。とくに教育能力を、また臨床医等では診療能力を選考基準に含めることが望まれる。

### ●教育の質的改善及び教育評価システムの確立

教育と人材育成の重要性を再認識するとき、教育カリキュラム、教育科目、教育方法の質的改善をさらに図るとともに、教育能力を評価し、これを教官選考に応用できるシステムの確立を早急に検討する必要がある。

### ●附属病院における開かれた医療システムの推進

今回の調査でインフォームド・コンセントの徹底の重要性・優先課題性が強調されたが、開かれた病院として、また、地域社会の医療現場のリーダーとして、地域社会を考慮に入れた病院診療体制の確立、地域医療調査にも今後教育・研究の立場から努力する必要がある。これと関連して、診療評価体制の充実などを通じて、できる限り医療情報公開にも努めることが望まれる。また、附属病院を支える基礎として、管理・運営・財政にも関心を持ち、改善する熱意の一層の発揮が望まれる。

### ●各大学の課題への取り組み

取り上げるべき課題に順位をつけ、順次改善に取り組むべきである。特にソフト面の質的改善に留意し、すでに実施されている課題についても、その効果を定期的に追跡調査する必要がある。大学院重点化については、各大学がそれぞれの現状に則して対策を考えるのが良いと考えられる。

## II 資 料

### 1. 重要度－緊急度の分類他

重要度－緊急度(又は優先度)を総合的に判断するために、重要度については、最重要(質問1に対して5を選択したもの)、重要度が高いもの(質問1で4以上を選択したもの)及び重要と考えず(質問1で0、1または2を選択したもの)の計3種類と、緊急度については最優先(質問2で4を選択したもの)及び実施中－実施済み(質問2で0と回答したもの)の2種類との組み合わせで、選択結果がそれぞれ対象全施設又は回答施設の過半数に達するか否かを指標として、各課題の重要度－緊急度を5段階のレベルで表現した(本資料の表1参照)。各レベルの意義及び基準(括弧内)は下記に示す。

○レベルの意義(基準)：

レベル1 優先度が高い課題

1-a 最重要・最優先の課題

(対象全施設の過半数が最重要で、かつ実行に当たって最優先すべきと考える課題)

1-b 最重要で、優先度が高い課題

(対象全施設の過半数が最重要と考えるが、なお最優先すべきと考える施設が、最重要と考える施設の過半数に止まっている課題)

1-c 重要で、優先度が高い課題

(対象全施設の過半数が重要度の高いものと考え、かつ最重要と認識する施設の過半数が、最優先すべきと考える課題)

1-d 優先度に比し、重要度に対する認識がなお低い課題

(重要度が高いと考える施設がなお全施設の半数に満たないが、最重要と考える施設の過半数は最優先すべきとする課



題)

レベル2 大多数の施設は重要と考えるが、優先度がレベル1に比して低い課題

2-a 最重要であるが、優先度が低い課題

(対象全施設の過半数は最重要と考えるが、最優先すべきと考える施設が最重要と考える施設の半数以下である課題)

2-b 重要であるが、優先度が低い課題

(対象全施設の過半数は重要度の高いものとするが、最優先すべきと考える施設が最重要と考える施設の半数以下である課題)

レベル3 重要度、優先度に対する認識が両者とも低い課題

(重要度が高いとする施設が対象全施設の過半数に満たず、かつ最優先すべきとする施設が最重要と考える施設の半数以下である課題)

レベル4 大多数の施設が重要と考えず、優先度も低い課題

(対象全施設の過半数が重要と考えず、最優先すべきとする施設も最重要と考える施設の半数以下である課題)

レベル5 最重要と考える施設で改善をみつつある課題

5-a 大多数の施設が最重要と考え、それらの施設で改善をみつつある課題

(対象全施設の過半数が最重要と考えており、同時に最重要と考える施設の過半数がすでに実施中又は実施済みの課題)

5-b なお、一部であるが最重要と考える施設で改善をみつつある課題

(重要度が高いと考える施設はなお一部(対象全施設の半数以下)であるが、最重要と考える施設の過半数がすでに実施中又は実施済みの課題)

○施設グループ間比較：

比較を分かりやすくするために、上記レベルをスコア(5~0)化した(レベルとスコアの対比は資料表1を参照のこと)。なお、実行を前提とする優先度を重視する立場から、レベル2と3に対しては同一スコアを与えた。

(資料)

表1 重要度－緊急度のレベル、スコア分類の基準

レベル	スコア	質問1に対して	質問1に対して	質問2に対して	質問2に対して	質問2に対して
		全施設の過半数	全施設の半数以下	全施設の過半数	回答施設 <sup>1)</sup> の過半数	回答施設 <sup>1)</sup> の半数以下
1-a	5	5を選択		4を選択		
1-b	4	5			4	
1-c	3	5又は4		4		
1-d	2		5又は4		4	
2-a	1	5				4
2-b	1	5又は4				4
3	1		5又は4			4
4	0	2, 1又は0				4
5-a	実施	5			0	
5-b	一部で実施		5又は4		0	

<sup>1)</sup> 質問1で5を選択した施設

(資料)

表2 重要度・緊急度(レベルまたはスコア)からみた各施設グループの課題一覧

レベル	1-a	1-b	1-c	1-d	小計	2-a	2-b	3	4	5-a	5-b	計
スコア	5	4	3	2		1	1	1	0	実施	一部で実施	
医学	3 <sup>1)</sup>	4	32	26	65	1	19	21	19	1	9	135
医学部	2	8	27	28	65	0	16	26	17	1	10	135
旧帝大	6	6	11	14	37	2	17	47	14	1	17	135
旧6大学	6	6	27	14	53	3	16	32	14	1	16	135
新8大学	2	6	15	19	42	5	14	50	16	0	8	135
その他	2	10	14	29	55	3	16	30	23	1	7	135
医科大学	2	2	21	18	43	2	17	42	21	1	9	135
歯学	4	8	16	18	46	6	26	35	16	1	5	135

<sup>1)</sup> 課題数 各レベルの意義については資料の冒頭の説明参照のこと

(資料)

表3 最高課題(スコア5)に対する各施設グループの認識状況(スコア比較)

分野	課題	医学部	旧帝大	旧6大学	新8大学	その他	医科大学	歯学部
学部教育	学部教育スタッフの増員	5 <sup>1)</sup>	5	5	4	4	4	3
	学部教育設備の整備充実	4	5	3	1	4	3	1
	学部教育施設の整備充実	4	5	4	3	3	3	3
	臨床実習における修得技能の明確化	3	1	5	1	2	3	1
	卒前臨床教育患者の確保	1	2	2	1	1	2	5
卒後教育	卒後研修設備の充実	2	1	1	1	3	3	5
大学院	大学院重点化構想	5	4	5	4	4	2	5
	大学院充足率の改善対策	2	一部で実施	2	5	2	2	4
	大学院校費の増額	4	5	3	4	4	4	4
	大学院生外国人留学生への財政的支援の強化	3	3	3	1	5	2	3



(資料)

表4-2 各課題の重要度・緊急度に対する各施設グループの認識状況(学部教育)(スコア比較)

課題	医学部	旧帝大	旧6大学	新8大学	その他	医科大学	歯学部
教育スタッフの増員	5 <sup>1)</sup>	5	5	4	4	4	3
非常勤講師・客員教授の任用制の活用・拡大	2	3	3	1	2	0	1
教育設備の整備充実	4	5	3	1	4	3	1
教育施設の整備充実	3	5	4	3	3	3	4
視聴覚教育・情報処理教育の設備充実・改善	3	1	1	2	3	1	一部で実施
学外教育病院の確保	3	3	1	2	3	3	1

<sup>1)</sup> スコア レベルとの関係については、冒頭の説明参照のこと

スコア5：最重要・最優先の課題

2：優先度が高いが、重要と考える施設が少ない課題

4：最重要で、優先度が高い課題

1：優先度が低いか、見解が明確でないもの

3：重要で、優先度が高い課題

0：重要でなく、優先度も低かった課題

(資料)

表5 各課題の重要度・緊急度に対する各施設グループの認識状況(卒後教育)(スコア比較)

課題	医学部	旧帝大	旧6大学	新8大学	その他	医科大学	歯学部
卒後初期研修の義務化	2 <sup>1)</sup>	0	0	2	2	0	4
研修医の待遇改善	3	1	1	2	3	3	3
卒後教育の改善	1	1	1	1	3	1	1
卒後研修の大学院教育との有機的連結	3	3	1	1	1	1	1
卒後研修での共通教育の対象と内容	2	0	1	2	1	1	2
専門医教育の対象と内容	1	1	1	1	1	0	1
卒後研修指導医の養成	2	2	2	2	1	1	3
卒後研修施設の充実	3	1	1	1	3	3	5

<sup>1)</sup> スコア レベルとの関係については、冒頭の説明参照のこと

(資料)

表6 各課題の重要度・緊急度に対する各施設グループの認識状況(大学院)(スコア比較)

課題	医学部	旧帝大	旧6大学	新8大学	その他	医科大学	歯学部
組織の見直し(たとえば大学院重点化構想)	5 <sup>1)</sup>	4	5	4	4	2	5
院生充足率の改善対策	2	一部で実施	2	5	2	2	4
学生募集方法の見直し	0	1	1	1	0	0	3
教育の重視	2	1	3	3	1	1	2
基礎系・臨床系の連携強化	3	1	4	1	4	1	1
課程博士制度の重視	1	1	3	1	2	1	1
学位審査制度・学位の在り方の見直し	2	1	1	2	1	1	2
分野別基礎技術教育カリキュラムの実施、強化	0	1	3	一部で実施	一部で実施	一部で実施	1
セミナーの充実	1	1	1	1	1	1	3
大学間単位互換の推進	1	0	1	0	一部で実施	1	1
Teaching assistantの増員・基礎講座院生の確保	3	4	3	3	1	1	3
大学院生・外国人留学生への財政的支援の強化	3	3	3	1	5	1	3
課程修了者に対する研究員制度拡充・研究支援制度の新設	3	1	4	1	4	2	1



(資料)

表9 主要課題の重要度・緊急度に対する各機関グループの認識状況(組織・人事・管理・財政・広報)(スコア比較)

課題	医学部	旧帝大	旧6大学	新8大学	その他	医科大学	歯学部
教員の選考基準の見直し	2 <sup>1)</sup>	2	1	2	1	1	2
教員選考での教育評価の導入	2	一部で実施	1	2	2	1	2
教員選考での診療評価の導入	2	1	3	1	2	3	2
現講座制度の見直し	1	1	3	1	1	1	1
組織の見直し(例えば大学院重点化構想)	5	4	5	4	4	2	5
追加組織・部門の検討	3	3	3	1	3	1	1
大学間教官交流の推進	2	2	1	0	0	1	1
全国教官総覧のデータベース化	0	1	1	0	0	2	2
国際交流の推進	3	1	3	3	2	3	1
研究財源の多様化(民間資金の導入など)とその有効利用	2	1	3	1	2	1	1
組織・管理・財政に関する教育科目の開講	0	1	1	0	0	0	2
医学教育・研究の評価報告のデータベース化	1	1	1	1	1	2	2
大学レベルでの広報活動の強化	1	1	1	1	0	1	1

<sup>1)</sup> スコア レベルとの関係については、冒頭の説明参照のこと

スコア5：最重要・最優先の課題

2：優先度が高いが、重要と考える施設が少ない課題

4：最重要で、優先度が高い課題

1：優先度が低いか、見解が明確でないもの

3：重要で、優先度が高い課題

0：重要でなく、優先度も低かった課題

(資料)

表10 各課題の重要度・緊急度に対する各施設グループの認識状況(附属病院その1)(スコア比較)

課題	医学部	旧帝大	旧6大学	新8大学	その他	医科大学	歯学部
附属病院の近代化, 統合	3 <sup>1)</sup>	2	3	4	2	1	3
教育・研究施設として必要な人員の確保	4	4	5	1	4	5	1
卒前臨床教育の患者の確保	1	2	2	1	1	1	5
卒前臨床教育の受け皿としての施設・設備の充実	3	1	1	1	4	1	4
先端医療の推進	1	4	4	1	1	3	1
総合診療部・救急部の設置, 充実	3	3	3	1	1	1	4
救急体制の確立	3	3	1	1	1	1	1
救急設備・人員の整備充実	3	3	1	1	2	3	2
病院病理部の設置, 充実	1	1	0	一部で実施	3	1	1
診療組織の見直し	0	1	1	1	2	1	4
診療単位(科)の根本的見直し	1	1	2	1	1	1	2
診療支援組織の整備	0	1	1	1	0	1	1
教育用病床の確保	2	0	1	2	2	1	0
病棟単位の見直し	1	1	1	1	2	0	1
機能別, 教育別病棟単位の導入	1	1	1	1	2	一部で実施	0
診療機器の全院的管理体制	2	1	1	2	2	一部で実施	0
機器管理人員(臨床工学技師)の確保	3	1	1	3	3	1	0
機器整備工事室の設置	2	2	0	1	1	1	0

<sup>1)</sup> スコア レベルとの関係については、冒頭の説明参照のこと

スコア5：最重要・最優先の課題

4：最重要で、優先度が高い課題

3：重要で、優先度が高い課題

2：優先度が高いが、重要と考える施設が少ない課題

1：優先度が低いか、見解が明確でないもの

0：重要でなく、優先度も低かった課題

(資料)

表11 各課題の重要度・緊急度に対する各施設グループの認識状況（附属病院その2）（スコア比較）

課題	医学部	旧帝大	旧6大学	新8大学	その他	医科大学	歯学部
患者サービスの推進	3 <sup>1)</sup>	1	1	1	2	1	1
インフォームド・コンセントの徹底	3	4	5	3	1	1	2
訴訟問題への対応	2	2	0	1	1	2	1
入院患者に優しい環境整備	1	1	2	1	1	1	1
ボランティア制度の活用	0	一部で実施	1	2	0	0	0
感染予防対策の充実	3	2	1	4	2	3	1
附属病院の管理運営・財政	3	1	4	4	1	1	1
診療単位（科）間人事交流の活発化	0	1	0	1	0	0	0
外部者の登録	0	0	0	0	0	0	0
高額診療費の対策	2	1	1	1	1	1	0
経費節減対策	1	1	一部で実施	一部で実施	1	1	1
診療成績の全院的評価体制の確立	2	2	0	2	0	1	1
病院診療録、各科資料のデータベース化	1	1	0	2	1	1	1
医師の生涯教育への積極的関与	2	一部で実施	1	2	2	2	1
地域に開かれた大学病院の役割	1	1	1	1	1	1	一部で実施
地域社会を考慮に入れた診療体制の確立	1	1	1	1	1	2	1
一般診療・専門診療の充実度に関する地域調査	0	0	1	1	0	0	0
遠隔診断システムの導入	1	1	0	1	1	一部で実施	2
病院間情報ネットワークの整備	2	1	1	3	2	一部で実施	2
国際医療協力	0	1	0	1	0	0	0

<sup>1)</sup> スコア レベルとの関係については、冒頭の説明参照のこと

スコア5：最重要・最優先の課題

4：最重要で、優先度が高い課題

3：重要で、優先度が高い課題

2：優先度が高いが、重要と考える施設が少ない課題

1：優先度が低いか、見解が明確でないもの

0：重要でなく、優先度も低かった課題

## 2. 「医学部，歯学部・附属病院の課題とその改善について（予備調査）」アンケート調査表

国大協総 第58号  
平成7年5月15日

各国立医科大学長  
各国立大学医学部長  
同 歯学部長 殿

国立大学協会  
医学教育に関する特別委員会  
委員長 石川英一

「医学部，歯学部・附属病院の課題とその改善について  
のアンケート調査（予備調査）」について（依頼）

平成3年7月に大学設置基準が改正され，各大学におかれましても，それぞれの大学の理念に基づき，特色あるカリキュラム作り等改革に取り組んでおられることと思ひます。

さて，本委員会におきましては，標記のアンケートを実施することになりました。この調査の趣旨は，各大学の医学部，歯学部・附属病院等がどのような課題を重視し，検討すべきと考えておられるかを予備調査し，本委員会として今後検討すべき課題を絞る資料とするものであります。この調査結果については，国立大学医学部長会議，病院長会議などとの関係も考慮して，関係機関ともご相談し，本委員会として検討していく課題を決定するもので，調査結果を公表するものではありません。また，このアンケートは，保健，看護及び薬学系を対象から除くこととしております。

つきましては，ご多忙のところ誠に恐縮ですが別紙アンケート用紙に，調査事項をご記入の上，5月31日（水）までに群馬大学宛ご回答願ひます。

なお，調査事項は附属病院の内容も含んでおりますので，附属病院長ともご相談の上，作成御願ひいたします。

アンケート送付先  
〒371 前橋市荒牧町4丁目2番地  
群馬大学 学長室 石川英一 宛

国立大学協会医学教育に関する特別委員会アンケート調査  
「医学部，歯学部・附属病院の課題とその改善について」（予備調査）

記入上の注意

1. 医学部，歯学部別に作成すること。
2. 保健・看護系および薬学系は今回の調査対象から除外すること。
3. 職員数の記入にあたっては，現員数を平成7年5月1日現在で記入すること。
4. 下線部には適切な数値を記入すること。
5. 【】で囲まれた選択肢は該当するものに○を付けること。

回答締切り：平成7年5月31日（水）  
宛先：〒371 群馬県前橋市荒牧町4-2 群馬大学 学長室 石川英一

回答大学名 \_\_\_\_\_

【(1) 総合大学医学部・大学院医学（系）研究科・医学部附属病院  
(2) 医科大学医学部・大学院医学（系）研究科・医学部附属病院  
(3) 歯学部・大学院歯学研究科・歯学部附属病院】

回答者の連絡先  
住所 \_\_\_\_\_  
電話 \_\_\_\_\_ ( ) \_\_\_\_\_  
ファックス \_\_\_\_\_ ( ) \_\_\_\_\_

医学部・歯学部の現況

I 講座について  
講座数 \_\_\_\_\_ 講座  
教員数 基礎講座  
教授 \_\_\_\_\_ 人 助教授 \_\_\_\_\_ 人 講師 \_\_\_\_\_ 人 助手 \_\_\_\_\_ 人 非常勤講師 \_\_\_\_\_ 人  
臨床講座  
教授 \_\_\_\_\_ 人 助教授 \_\_\_\_\_ 人 講師 \_\_\_\_\_ 人 助手 \_\_\_\_\_ 人 非常勤講師 \_\_\_\_\_ 人

II 医学部・歯学部の附属研究施設等について  
施設数 \_\_\_\_\_ 箇所  
教員数 教授 \_\_\_\_\_ 人 助教授 \_\_\_\_\_ 人 講師 \_\_\_\_\_ 人 助手 \_\_\_\_\_ 人



III 寄付講座について

講座数 \_\_\_講座

教員数 教授\_\_\_人 助教授\_\_\_人 講師\_\_\_人 助手\_\_\_人

IV 学部学生数\_\_\_人

内訳 1学年\_\_\_人 2学年\_\_\_人 3学年\_\_\_人 4学年\_\_\_人

5学年\_\_\_人 6学年\_\_\_人 うち留学生\_\_\_人 外国人\_\_\_人

V 教育研究支援職員数\_\_\_人

内訳 行政職(一)\_\_\_人 行政職(二)\_\_\_人 医療職(二)\_\_\_人

医療職(三)\_\_\_人 非常勤職員\_\_\_人

教務職員については別に考慮する。

VI 大学院について

専攻数\_\_\_専攻 基礎系\_\_\_専攻 臨床系\_\_\_専攻

大学院担当教員数(大学院担当手当支給対象者)

教授\_\_\_人 助教授\_\_\_人 講師\_\_\_人 助手\_\_\_人

院生\_\_\_人 研究生\_\_\_人 Teaching assistant\_\_\_人

VII 大学院の基礎となる研究所等について

研究所等\_\_\_箇所

院生\_\_\_人 研究生\_\_\_人 Teaching assistant\_\_\_人

(註) 保健・看護系および薬学系学科は今回の調査から除外

VIII 附属病院について

分院数\_\_\_箇所

診療科数\_\_\_科

中央診療施設等\_\_\_箇所

特定機能病院の指定 【(1)有 (2)無】

病院歯科の指定 【(1)有 (2)無】

診療体制 【(1)従来型 (2)臓器別 (3)その他】

教職員数

教員 教授\_\_\_人 助教授\_\_\_人 講師\_\_\_人 助手\_\_\_人

非常勤医師 医員\_\_\_人 医員(研修医)\_\_\_人

医療関係職員 看護婦\_\_\_人 うち定員内数\_\_\_人

診療放射線技師\_\_\_人 うち定員内数\_\_\_人

薬剤師\_\_\_人 うち定員内数\_\_\_人

臨床検査技師\_\_\_人 うち定員内数\_\_\_人

歯科衛生士\_\_\_人 うち定員内数\_\_\_人

歯科技工士\_\_\_人 うち定員内数\_\_\_人

その他の医療関係職員\_\_\_人 うち定員内数\_\_\_人

事務職員 \_\_\_人

その他の職員 \_\_\_人

予算病床数\_\_\_床 稼働率(1994年平均)\_\_\_%

歯科用チェアユニット数\_\_\_台

外来患者数(1994年1年間)\_\_\_人

救急患者数(1994年1年間)\_\_\_人

医・歯学系大学・学部で当面する具体的課題と考えられるものに、次のようなものがあります。各課題についてそれぞれ以下の質問1, 2に対する回答を項目の最初の枠目に記入してください。

#### 質問1

これらの課題はあなたの所属する施設にとって、重要であると考えますか？ 重要であると考えられる場合、その順位を5～1の数字（最高5，最低1）で教えてください。なお、5～1の割合は、それぞれ20%（すなわち各々25課題程度）をめどに教えてください。重要と考えられない場合は、0を記入してください。

#### 質問2

質問1で「5」と回答した場合（即ち、25課題程度について）は、それぞれの課題毎に、改革を実行することを前提として、課題への取組みの緊急度は、つぎのどれでしょうか？

以下の選択肢から選び、番号を記入してください。

#### 選択肢

- 4 最優先で取り組む必要がある
- 3 できれば速やかに取り組む必要がある
- 2 今後検討したほうがよい
- 1 将来に残された課題である
- 0 既に実施中または実施済みである

#### A 学部教育・学生の厚生補導が当面する課題

質問1	質問2	
1		学部の一貫教育
2		専門教育と教養教育の統合
3		コア・カリキュラムの確立
4		医学・医療周辺科目の履修(例えば看護学, 保健学, 社会福祉論等)
5		社会科学系科目の履修(例えば医療法学, 経営管理学, 生命倫理等)
6		情報処理教育の充実
7		選択科目の増加
8		専門教育の早期開始
9		早期体験学習
10		ボランティア活動の実践
11		学外実習の強化
12		研究体験
13		国際化に対応する実用外国語教育の充実
14		基礎教育・研究者養成教育コースの併設(例えばMD-PhDコースの導入)

15		国内外の他大学との単位互換の推進
16		臨床実習における習得技能の明確化
17		問題解決型学習の導入
18		小人数教育の推進
19		実習時間の増加
20		模擬患者による診断学実習の実施
21		シラバスの作成
22		学生による授業評価の導入
23		同僚による授業評価の導入
24		マルチメディア機器(コンピュータ)の活用
25		医学教育教授法の改善
26		医師国家試験対策
27		教育スタッフの増員
28		学外教育病院の確保
29		非常勤講師・客員教授の任用制の活用・拡大
30		教育設備の整備充実
31		教育施設の整備充実
32		視聴覚教育・情報処理教育の設備充実・改善
33		学生対策としてチュータ制の活用
34		学業不振者に対する指導
35		学生の健康管理
36		留学生宿舎の整備
37		学生宿舎の整備
38		学生向け厚生施設の整備
39		大学間単位互換の推進

#### B 大学院が当面する課題

質問1	質問2	
40		大学院充足率の改善対策
41		教育の重視
42		分野別基礎技術教育カリキュラムの実施, 強化
43		大学院セミナーの充実
44		基礎系・臨床系の連携強化
45		学生募集方法の見直し
46		学位審査制度の見直し・学位のあり方見直し
47		課程博士制度の重視: 論文博士制度のあり方見直し
48		大学院生・外国人留学生への財政的支援の強化
49		施設・設備の整備
50		校費の増額
51		留学生宿舎の整備充実

52		学生宿舎の整備充実
53		大学院課程修了者に対する対策
54		大学院課程修了者に対する研究員制度の拡充・研究支援制度の新設
55		大学院修了者の教職への優先的採用
56		大学間単位互換の推進
57		Teaching assistantの増員・大学院基礎講座院生の確保

### C 医学研究が当面する課題

	質問1	質問2
58		基礎医学研究の充実
59		臨床系医学者との共同研究体制の推進
60		非医学系基礎学者との共同研究体制の推進
61		先端的医療の充実をめざす基礎研究の推進
62		研究人員の充実
63		研究支援スタッフの確保・増員
64		共同実験施設の定員確保
65		研究施設・設備の充実、整備
66		研究設備の効果的共同利用、共同利用機器センターの整備
67		動物実験施設の整備
68		遺伝子組み換え施設の整備
69		研究費の確保
70		科学研究費の増額
71		外注経費の補填対策
72		実験経費の増額
73		学内研究奨励制度の導入

### D 組織・人事・管理・財政などが当面する課題

	質問1	質問2
74		教員の選考基準の見直し
75		教員選考での教育評価の導入
76		教員選考での診療評価の導入
77		現講座制度の見直し
78		組織の見直し（例えば大学院重点化構想）
79		追加組織・部門の検討
80		大学間教官交流の推進
81		全国教官総覧のデータベース化
82		研究財源の多様化（民間資金の導入等）とその有効利用
83		国際交流の推進
84		組織・管理・財政に関する教育科目の開講

### E 広報に関する課題

	質問1	質問2
85		医学教育・研究の評価報告のデータベース化
86		大学レベルでの広報活動の強化

### F 附属病院が当面する課題

	質問1	質問2
87		卒前臨床教育の患者の確保
88		卒前臨床教育の充実に対する受け皿としての施設・整備の充実
89		総合診療部の設備、充実
90		病院病理部の設置、充実
91		教育するのに十分な病床の確保
92		教育・研究施設として必要な人員の確保
93		卒後教育の改善（教育プログラムの作成等）
94		卒後初期研修の義務化
95		研修医の待遇改善
96		卒後研修での共通教育の対象と内容
97		卒後研修の各学会専門医認定制度との整合性
98		卒後研修設備の充実
99		卒後研修の大学院教育との有機的連結
100		卒後研修指導医の育成
101		専門医教育の対象と内容
102		診療単位（科）の根本的見直し
103		特定機能病院（歯学部附属病院の場合：病院歯科）に対する対応
104		先端医療の推進
105		救急体制の確立
106		救急設備・人員の整備充実
107		病棟単位の見直し
108		機能別、教育別病棟単位の導入
109		診療機器の全院的管理体制
110		機器管理人員（臨床工学技師）の確保
111		機器整備工事室の設置
112		地域社会を考慮にいたった診療体制の確立
113		一般診療・専門診療の充実度に関する地域調査
114		感染予防対策の充実
115		附属病院の管理運営・財政
116		診療単位（科）間人事交流の活発化
117		外部者の登用
118		診療組織の見直し

119		診療支援組織の整備
120		高額診療費に対する対策
121		経費削減対策
122		医師の生涯教育への積極的関与
123		地域に開かれた大学病院の役割
124		遠隔診断システムの導入
125		病院間情報ネットワークの整備
126		患者サービスの推進
127		診療成績の全院的な評価体制の確立
128		評価結果のデータベース化
129		インフォームド・コンセントの徹底
130		国際医療協力に関する諸問題
131		附属病院の近代化, 統合
132		入院患者に優しい環境整備
133		ボランティア制度の活用
134		訴訟問題への対応
135		病院診療録, 各科資料のデータベース化

医学教育に関する特別委員会名簿（平成8年3月現在）

- 委員長 石川 英一（群馬大学長）
- 委員 廣重 力（北海道大学長）\*
- 〃 坪井 昭三（山形大学長）
- 〃 武藤 輝一（新潟大学長）
- 〃 山本 肇（東京医科歯科大学長）\*
- 〃 宮地 良彦（信州大学長）\*
- 〃 佐々木 博（富山医科薬科大学長）
- 〃 川島 吉良（浜松医科大学長）
- 〃 岡田 慶夫（滋賀医科大学長）
- 〃 武田 克之（徳島大学長）
- 〃 山口 雅也（佐賀医科大学長）
- 〃 森野 能昌（熊本大学長）
- 専門委員 中里 洋一（群馬大学教授）
- 〃 青木 繁伸（群馬大学教授）
- 〃 橘 正道（千葉大学教授）
- 〃 武藤徹一郎（東京大学教授）
- 〃 大山 喬史（東京医科歯科大学教授）
- 〃 斎藤 英彦（名古屋大学教授）
- 〃 柿本 泰男（愛媛大学教授）\*

（注）括弧内役職は、委員会所属時点のもの。

\*印は前委員又は前専門委員

平成8年4月30日 発行

アンケート調査「医学部，歯学部・附属病院の課題と  
その改善について」（予備調査）の結果報告書

編 集 国立大学協会

医学教育に関する特別委員会

発行者 国立大学協会

東京都文京区本郷7丁目3番1号

電 話 03(3811)4760, 03(3813)0647

03(3812)2111 内線(7950, 7951)

F a x 03(3818)8656